

青少年育成委員会 年間事業計画書

1. 委員会構成メンバー ◎佐瀬 悠真、○米原 伸、高橋 史加
2. ◎石和田 早織、◎小原 昂大

2. 委員長所信（基本方針）

私が子どもの頃は、地域の大人達が行うまちの催しに参加し日常生活とは違う体験を通して、家や学校では得られない多くの学びを得ることができました。それは身体を動かし仲間と協力をして挑戦を重ねる中で、助け合いや絆の大切さ、そして社会との繋がりを感じたからです。しかし現代の子ども達は、地域との関わりが希薄になりつつあり、こうした体験の機会が減少しています。だからこそ今、大人達が挑戦の機会を創出し、次代へ恩を紡いでいくことが求められます。

そこで我々は、子ども達が日常では経験のできないことに挑戦する機会を提供します。新たな挑戦は不安も伴いますが、それを乗り越えることで成長や自信へと繋がり、大人の想像を超える学びを得ることができます。こうした経験を通して、子ども達が自らの可能性を拓げることが、未来へ続く大切な一歩となります。また、子ども達にまちへの興味関心や愛着をもっていただくため、地域の大人達を巻き込み身体を使って五感で感じる体験を通して、子どもの成長した姿を見た大人が新たな気づきを得ることで共に「まちへの愛着」を育むよう導きます。

これらを通じて我々は、子ども達が挑戦を重ねる中で「まちへの愛着」を育み、次代へ恩を紡いでいける事業を展開します。地域の大人達と共に、子ども達が日常では味わうことのできない体験に果敢に挑戦し、成長していくよう導いてまいりますので、1年間どうぞよろしくお願ひいたします。

3. 事業計画

1) 広報誌ふれあい（新年号）の編集発刊（1月）

（目的）安来市民の皆様に1年間の決意とJC運動への周知を図ります。

（方法）広報紙ふれあい（新年号）を発刊します。（安来市内山陰中央新報購読者対象）

2) 5月例会並びに青少年育成事業の開催（5月）

（目的）子ども達が成長し自信に繋げることで、新たな可能性を拓げるきっかけをつくります。

（方法）子ども達が挑戦心をもって参加したくなる、日常では体験できない事業を開催します。

3) 8月例会並びに第181回通常総会の開催（8月）

（目的）総会を開催し定款第3章第17条「役員の選任及び解任」その他事項について決議します。

（方法）通常総会を厳粛に滞りなく開催します。

4) 10月例会並びに青少年育成事業の開催（10月）

（目的）子ども達のまちへの興味関心を深め、愛着を育みます。

（方法）まちの大人達と協力し、五感で感じることのできる事業を開催します。

5) 12月創立記念例会の開催（12月）

（目的）2026年度理事長の報告と2027年度理事長の方針を先輩方に伝え、2027年度へ向けて士気を高めます。

（方法）山常楼にて特別会員をお招きして、語り合う場をつくります。

4. 事業予算

総事業予算 683,500円

実施事業名	実施時期	事業予算	事業区分	備考
広報誌ふれあい新年号	1月	120,000円	継続事業	
5月例会/青少年育成事業	5月	40,000円	継続事業	
例会並びに第181回通常総会	8月	8,500円	その他	
10月例会/青少年育成事業	10月	20,000円	継続事業	
12月創立記念例会	12月	495,000円	その他	11,000円×30名(特別会員) 8,250円×16名(正会員) 8,250円×4名(サポートー会員)